

地球温暖化対策計画書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 (届出者)の名称	株式会社ニチレイ・ロジスティクス東海白鳥物流センター
地球温暖化対策事業者 (届出者)の住所	愛知県名古屋市熱田区川並町2-22
工場等の名称	株式会社ニチレイ・ロジスティクス東海白鳥物流センター
工場等の所在地	愛知県名古屋市熱田区川並町2-22
業種	サービス業(他に分類されないもの)
業務部門における 建築物の主たる用途	工場
建築物の所有形態	自社ビル等(自ら所有し自ら使用している建築物)
事業の概要	冷蔵・冷凍倉庫及びそれに付随する物流サービス
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策計画書の公表方法等

公表期間	令和5年2月6日 ～ 令和7年3月31日		
公表方法	○	掲示 閲覧	(場所) 白鳥物流センター事務所受付窓口
		ホーム ページ	(HPアドレス)
		冊子	(冊子名・ 入手方法)
		その他	(その他詳細)
公表に係る問合せ先	052-682-5221		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

当社は、ニチレイ・グループの一員として資源の有効活用と保護増強、ならびに地球環境の保全を重視する経営を行います。

1. 継続的な環境改善

P D C Aサイクルに基づく環境施策の継続的改善を図ります。

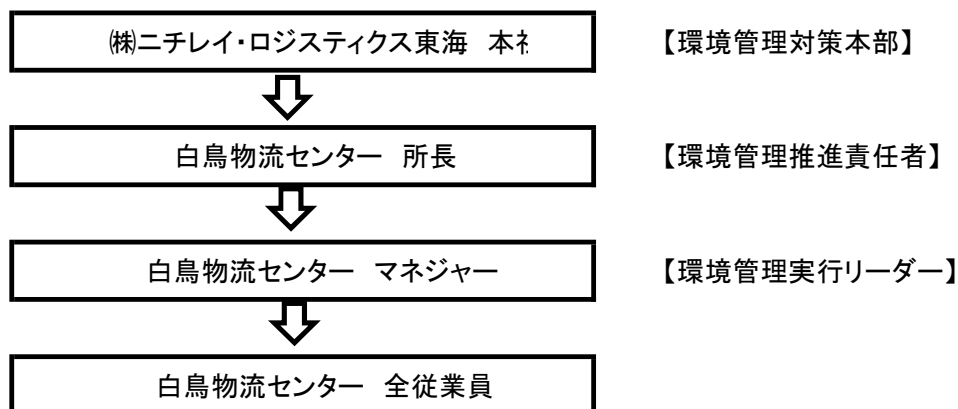
2. 省資源・省エネルギー活動の推進

事業所で使用する電気、燃料等のエネルギー使用原単位の低減を図ります。

3. グリーン購入の推進及び環境負荷低減材料の使用促進

事業所で使用する事務用品及びセンター内で使用する材料は環境負荷低減商品を利用するようにしていきます。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和 3 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1, 811	t-CO ₂
①を （温室効果ガス 換算） ②を除く	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		1, 811	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度 令和 3 年度 排出量（実績）		目標年度		令和 6 年度	
			目標排出量		目標削減率	
温室効果ガス 総 排 出 量	1, 811	t-CO ₂	1, 793	t-CO ₂	1. 0	%

項 目	基準年度 令和 3 年度 排出量（実績）		目標年度		令和 6 年度	
			目標排出量		目標削減率	
原単位あたりの 排 出 量		CO ₂		CO ₂		%

（2）目標設定の考え方

温室効果ガスを3年間で1%以上削減する。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
省エネルギー行動の実践・冷蔵冷凍倉庫	・冷凍機ユニットコンデンサー定期清掃の実施。 ・冷凍設備の定期的なメンテナンスの実施。 ・冷蔵庫防熱扉の定期整備の徹底。 ・適正温度管理の徹底（温度計校正の実施）。 ・冷凍機運転の効率UP（四季にあわせた運転管理）	・各冷凍機ユニットコンデンサー定期清掃(1回/年)実施 ・各低温室冷却器定期洗浄（1回/年）実施 ・冷却塔(4台)定期清掃(1回/月)実施 ・冷蔵庫防熱扉パッキン随時整備実施
省エネルギー・省資源の行動の実践・冷暖房	・冷房温度28℃、暖房温度19℃を徹底する。 ・不在部屋の空調機器の停止の徹底	・冷房28℃、暖房19℃設定継続 ・不在部屋空調停止徹底 ・昼休み照明消灯の徹底 ・各詰所タイマー式ストーブに変更
1号館自然冷媒化	・冷凍機の効率運転データー収集 ・冷凍機の運転管理設定の見直し、調整 ・初年度のデフロスト間隔の見直し	・各冷凍機の運転データーを基に、年間運転の最適化を図る。 ・冷凍機の設定調整による省電力化を数値化する
1、2号館受電トランス入替	・高効率トランスに入替を実施	・電力データーを基に、高効率化による電力消費量の削減を数値化する。前年対比1%削減を目指す。
1号館LED自動点灯導入	・随時LED庫内照明の自動点灯装置を導入する。	・LED化が終わり、庫内照明の自動点灯システムを随時導入し、電力消費の削減を目指す。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

ア これまでに実施している再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 計画期間における再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

--

(3) 環境価値（クレジット等）の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

--

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

--